

NPO法人 都市災害に備える技術者の会

第2回 幹事会 議事録要旨

- 1 日時：平成22年2月6日（土）12時30分～14時30分
- 2 場所：太田ジオリサーチ 大阪営業所
- 3 出席者：石川、伊藤、太田、西山、廣野、山田（以上6名、敬称略）
- 4 資料：①第二回幹事会議事次第
②「第3回災害対策セミナーin神戸」の出席者名簿と報告文
③都市近郊の大規模地震災害に備えて当NPOがとるべき危機管理とは？
- 5 議事要旨
 - (1) 第1回幹事会議事録と幹事会規約及び組織図について
幹事会の位置づけを示す組織図については、幹事会で協議し、幹事会を理事会のすぐ下におくこととする。
なお、幹事会が他の委員会等の上位に位置づけられるものではない。
理事長・事務局長の承諾後NPO法人会員全員に送付する。
 - (2) 幹事会の果たすべき役割と理事会、技術士会との関係について
NPOと技術士会（近畿支部）との関係について協議。幹事会で以下の点を確認した。
 - ・理事会との関係・位置づけは幹事会規約に記載の通り「理事会の補完」である。
 - ・技術士会との関係では、当NPOの立ち上げの経緯から、今後も引き続き一層良好な関係の保持に努める。
 - (3) 幹事会の開催について
幹事会を今後、定期的で開催することとし、具体的には、偶数月の第1土曜日を基本とする。
 - (4) 今後の活動に向けて
 - 1) ニュースレター19号での理事長の指摘について
理事長から「減災コミュニケーション」の推進を提案されている。「減災コミュニケーション」について今後、各自で勉強し、理解を深めていくことを幹事間で合意。
 - 2) 異分野の科学者、技術者との連携
リスクコミュニケーションについてこれを専門とする学識経験者から講演依頼を検討。
 - (5) 1月20日開催の「第3回災害対策セミナーin神戸」の報告について
 - 1) 各パネリストの報告内容の紹介。
 - 2) 行政や様々な機関とのネットワークの構築について
ネットワークづくりがうまく進めるためにはどうすべきかを議論。
また、市民と行政の間を取り持つのがNPOの役目としてイメージしながら、「草の根」で動くというか、相談があれば、いろんなところへ声をかけると言うスタンスでいくべきではないかという意見を踏まえ、NPOの活動として、市民目線に立って、今後実績作りに取り組むことを確認。
 - (6) 震災発生時のNPOの対応について
資料③に基づき説明。
NPOの定款では、災害発生直後の活動も対象としているが、理事長から当NPOの活動は各分野の専門的立場から災害の予防、啓発、教科書作りなどが中心であり災害発生直後の活動は「無理だろうな」との話があった。この件で、NPOとしていろんな（相談？）の「窓口」を開けてはどうかを議論した。その結果として
 - ・会員の得意とする分野や経歴のデータベース化

・会員相互間でなんらかの目的を意識したネットワークの構築を整理し、災害発生直後の連絡体制や、どういう災害にどのように動きをするのか、具体的にシミュレートしてはどうかとの意見が出された。同時に当NPOでは何ができるかを知るための基礎資料（人材DB）を作成する必要があり、会員に対しアンケート調査実施を確認。

（その他の意見）

土木学会や建築学会、技術士会など各種団体が発災後調査団を派遣し、調査報告書をまとめ提言しているが、これらの調査結果についてそれぞれの立場から意見交換をすることも有意義ではないか。また、いろんな異分野のNPO等と活動をするのも意味があるのではないかと意見。

また、各学会の報告会があるが、合同の意見交換と言った場がない。このため折角の調査や報告会が生かされていないと感じる。このような状況に対して、当NPOが各学会を横断する形でつなぎ役を買って出て、わかりやすく市民等にアピール、説明することをやってはいいのではないかという意見。

技術系の「サロン」的なものがあったもいいのではないか。たとえば、「防災カフェ」などは市民が多く参加するいい事例であり、気楽にできるものがある。

（7）研修会の内容検討

研修会の意義と具体的内容検討について、今後メールで意見交換することとなった。

以上